

## 「イノベーション・commons（共創拠点）」の実現に向けて 報告書の取りまとめについて

令和4年10月  
文部科学省 文教施設企画・防災部計画課

### 1. 検討の経緯等

- Society 5.0 の実現に向け、国立大学等が地域・社会における課題解決や新たなイノベーション創出等に貢献していくことが期待されている。
- 国立大学等施設の老朽化が深刻化し、その機能強化を図ることが急務である中、多様な主体の共創活動を支えるソフト・ハード一体となった「共創拠点」の整備充実を図っていくことが重要。【別添1】  
こうした「共創拠点」の実現に向けて、有識者会議（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）で議論を重ね、本報告書を取りまとめ。

【参考】全国知事会、日本経済団体連合会、日本商工会議所からも大学等キャンパスの共創拠点化の必要性、推進に向けた取組が提言されているところ。

### 2. 概要

- 大学等キャンパス・施設において、地域や産業界等の多様な主体が共創し新たな価値を生み出す共創拠点を整備していくために、以下の事項を取りまとめ。【別添2】
  - ・国立大学等キャンパス・施設の目指すべき方向、共創拠点の考え方
  - ・共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例
  - ・共創拠点の実現に向けた取組のポイントと具体的な整備イメージ
  - ・今後の推進方策等
- 国の推進方策として、戦略的リノベーション等により共創拠点化を推進するためのより一層の予算の確保・充実、重点的支援をはじめとした方策を提言。

### 3. 報告書を踏まえた対応

- 提言された推進方策を着実に実施。先行して、令和5年度概算要求に必要な予算を要求。【別添3】
- 10月7日（金）に本取りまとめを公表し、引き続き、大学等、全国知事会、日本経済団体連合会、日本商工会議所等と連携を図りつつ、共創拠点化の取組を推進。

# 国立大学のキャンパス整備について

## 国立大学等施設の現状と課題

昭和40年代～50年代に整備した膨大な施設の更新時期が到来し、**安全面、機能面、経営面で大きな課題が発生**

### 安全面

- 老朽化による**事故発生が頻発**



外壁の落下の危険

### 機能面

- スペース不足、**教育研究機能の低下**



過密な研究室 (機能低下と事故)

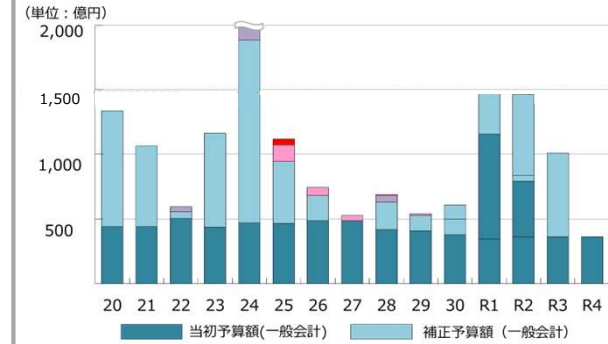
### 経営面

- エネルギーロスや事故・故障対応による**財政負担の増大**



配管の腐食

## 施設整備費補助金の予算額の推移



### 【R3年度予算】

当初： 363億円  
補正： 646億円  
合計：1,009億円

### 【R4年度予算】

当初： 363億円

## 第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3～7年度）（令和3年3月 文部科学大臣決定）

### ▶施設整備の方向性 キャンパス全体を **イノベーション・コモンズ（共創拠点）** へ

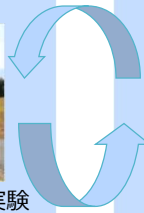
#### 産業界との共創



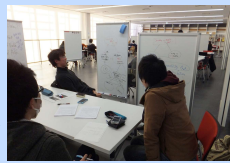
他大学や企業等との  
オープン・ラボ



構内道路を活用した実証実験  
出典：https://www.kyushu-u.ac.jp/jja/topics/view/1152



#### 教育研究の機能強化



学生同士のアクティブ・  
ラーニング



ICTによる  
コミュニケーション



国際寮における  
日常的な国際交流



#### 地方公共団体との共創



地元企業との交流会



地域への公開講座

### 整備内容

総面積：860万㎡ 所要経費：約1兆500億円（多様な財源を含む）

【老朽改善整備】 約785万㎡（大規模 225万㎡ 性能維持 560万㎡）

保有する施設を最大限に有効活用するため

- 従来の改修サイクルを**長寿命化のライフサイクル**へ転換
- 「**戦略的リノベーション**」による**老朽改善で機能向上と長寿命化**を図る

【ライフライン更新】 事故の未然防止・災害時の継続性の確保

配管・配線：約**1,900km** 設備機器：約**1,800台**

【新增築整備】 新たな教育研究ニーズへの対応 約**30万㎡**

【附属病院整備】 先端・地域医療の拠点を計画的に整備 約**45万㎡**

### 実施方針

国立大学等の施設整備は「未来への投資」であり、文部科学省と国立大学法人等が連携し多様な財源を確保しつつ取組を推進

「イノベーション・commons（共創拠点）」の実現に向けて「国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議」（主査：西尾章治郎 大阪大学総長）において検討し、提言を取りまとめ。

## 国立大学等キャンパス・施設の目指すべき方向性

第1部  
第1章

- **Society 5.0の実現**に向け、国立大学等において、**地域・社会における課題解決や新たなイノベーション創出**等の視点から、ソフト・ハード一体となった教育研究環境の整備充実を図ること等が求められている。
- **学生や教職員、地域や産業界などの社会の多様なステークホルダーが大学等のキャンパス・施設を最大限活用し共創することで、新たな価値等を生み出していくことが必要。**

## イノベーション・commonsの実現に向けて

第1部  
第2章

- 「イノベーション・commons」とは、**ソフト・ハードの取組が一体となり、多様なステークホルダーが「共創」**できる拠点であり、**大学等のキャンパス全体が有機的に連携して共創活動を実現**する拠点。
- その実現のためには、**各大学等の「共創」のコンセプトの明確化、キャンパスマスタープラン等の再構築、それらを踏まえた戦略的リノベーション等の施設整備を行うことが重要であり、各大学等の特色・強みを生かしていくことが重要。**



## 共創活動を支えるキャンパス・施設整備の事例等の整理

第1部  
第3章

|  |  |
|--|--|
| <b>世界をリードする最先端研究の推進</b><br>・世界をリードする最先端研究拠点<br>・最先端研究ツール活用を中心とした共創拠点 など  | <b>産業界との共創による地域産業振興等への貢献</b><br>・地域産業振興の研究拠点<br>・スタートアップ創出のための拠点 など                                    |
| <b>社会課題の解決への貢献</b><br>・実証実験の場としてのキャンパス整備<br>・カーボンニュートラル（ZEB等）<br>・防災・復興拠点<br>・健康・医療への対応 など   | <b>地方公共団体や教育機関等との共創による人材育成等の推進</b><br>・地域の人材育成（教育大含む）<br>・まちづくりと連動したキャンパス整備<br>・人材・地域交流<br>・リカレント教育 など |
| <b>全ての活動に共通して必要となる施設面での対応（ミニмум・リクワイアメント）</b><br>・情報通信環境の整備・拡充<br>・再生可能・省エネルギー等の循環型社会への貢献<br>・防災への対応<br>・「新たな日常」への対応<br>・「新たな日常」への対応 |  |

- 各大学等で整備・活用されている共創空間等の事例から、「イノベーション・commons」の実現に向けて参考となるポイント・視点を抽出。
- 各事例を具体的な活動を軸に4つのカテゴリー（左図）に分けて整理。「イノベーション・commons」では、キャンパス全体で各カテゴリーに示す多様な観点に複合的に対応。



- 全てに共通する対応として、情報通信環境の整備・拡充、循環型社会への貢献、防災やダイバーシティ・「新たな日常」への対応、フレキシブルな施設、屋内外の交流空間の充実を整理。

## イノベーション・commonsの実現のための取組のポイント、具体的な整備イメージ

第1部  
第4章

### 取組のポイント

- **大学等のビジョン等に基づき、キャンパス全体に交流・対話し共創を行う場を整備することが重要。また、各取組を継続して発展させていくことが重要。**
- 各検討段階を通じて、**一貫性をもって取組を支える組織や共創活動を支えるDXの推進、共創の好循環の形成等が重要なポイント。**

|             | ソフト（教育研究活動等）                        | ハード（施設整備）   |
|-------------|-------------------------------------|---|
| 共創の<br>前段階  | 大学等の目指すビジョンの共有、「共創」の考え方の明確化         | 全学的な施設マネジメントの実施（施設情報のデジタル化を含む）                            |
|             | ステークホルダーとの日常的な関係構築                  |   |
| 企画・<br>基本計画 | 大学等のビジョンに基づくキャンパスマスタープランや個々の施設計画の策定 | 既存施設や外部空間とのつながり（キャンパス全体のイノベーション・commons化）                 |
|             | 多様なステークホルダーを巻き込んだソフト・ハード一体の検討体制の構築  |   |
| 施設整備        | 取組を実現するための予算の確保                     | 共創の場づくり<br>・活動を可視化する工夫<br>・対話・交流を誘発する空間<br>・フレキシビリティの確保 等 |
|             | 使用者の「場づくり」への参画                      |   |
| 運営<br>活用    | 共創活動の場として活用                         | 使用者の声を踏まえた改善  |
|             | 有効活用を図るための継続的な検討体制                  |   |
|             | 各取組の継続的な発展（共創の好循環の形成）               |   |

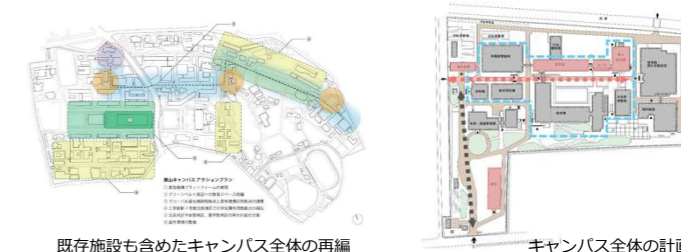
<「イノベーション・commons」実現のための取組のポイント>

### 具体的な整備イメージ

#### ①都市計画等のまちづくりと大学キャンパスの関係



#### ②キャンパス全体の「イノベーション・commons」化とキャンパスマスタープラン



#### ③個々の施設における共創空間づくり（多様なステークホルダーの交流・対話を誘発）



## 今後の推進方策

第1部  
第5章

国  
が  
取  
り  
組  
む

- 国の予算のより一層の確保・充実、重点的支援
- ソフト・ハード一体の取組や企画段階から一貫した取組への支援
- 法的・技術的な課題を含めた実態把握と必要な改善
- 目標や成果の可視化、情報発信の強化、関係機関との連携、伴走支援等

大  
学  
等  
が  
取  
り  
組  
む

- ソフト・ハード一体の取組、施設整備の着実な推進
- 各主体のリソースの最大活用、協力関係の構築
- 共創活動の可視化、共創拠点の実質化と情報発信
- 都市計画制度の枠組みの最大活用等

地  
域  
の  
期  
待

- ビジョン・目標の共有と役割・強みの明確化
- 高等教育を所管する部局等の設置（地方公共団体）
- キャンパスを都市計画等に位置づけた検討
- 地域プラットフォームや産学連携事業等の活用

## 概要

- ◆「第5次国立大学法人等施設整備5か年計画（令和3年3月文部科学大臣決定）」に基づき、国立大学等施設の戦略的リノベーションによる老朽改善を行い、教育研究環境の機能強化を図るとともに、施設の長寿命化、2050年カーボンニュートラルに向けた脱炭素化を促進する。
- ◆ソフト・ハード一体となった教育研究環境の整備等のイノベーション・コモンズ（共創拠点）化を推進することにより、老朽改善、教育研究の高度化・多様化・国際化、地方創生や地域防災、イノベーション創出に貢献する。

## 事業内容

### ① 安心・安全な教育研究環境の整備（国土強靱化※事項要求）

耐震対策・防災機能強化、老朽改善、ライフラインの計画的な更新



落下の危険がある外壁



老朽改善された施設

### ② イノベーション拠点の強化等

先端研究や人材育成等に貢献する機能強化、大学附属病院の再生



対面とオンラインを併用した教育環境



フレキシブルなオープンラボ

### ③ カーボンニュートラルに向けた取組

ZEB化を推進するための先導モデル事業の実施、省エネの取組の加速化



創エネルギー設備の整備



高効率空調の整備

老朽改善にあわせた機能強化等を行い、キャンパス全体が有機的に連携し、あらゆる分野・場面・プレーヤーが共創できる拠点となる「イノベーション・コモンズ」の実現を目指す

#### 他の大学・研究機関等との共創



研究者間の連携を促進する最先端研究の拠点



体育館をリノベーションしたコワーキングスペース、スタートアップ創出拠点



学生と起業家・地元企業との交流を促進する共創の場

広域的・発展的な  
大学間の連携

産学連携・実証実験



#### 地方公共団体・地域社会との共創



地域の教育研究拠点として人材育成、地域課題の解決



災害発生時の医療提供の継続・避難所としての活用



※ZEB：Net Zero Energy Building の略称

## 国立大学法人等の施設整備の推進に関する調査研究協力者会議委員 名簿

| 氏 名      | 役 職  |
|----------|--|
| 池田 三知子   | 一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs 本部長                       |
| 岩村 水樹    | 東京大学理事（総長ビジョン推進担当）、<br>グーグルバイスプレジデント           |
| 上野 武     | 千葉大学名誉教授                                       |
| 片岡 郁雄    | 香川大学理事・副学長（研究・産官学連携・教員評価担当）                    |
| 金子 慎治    | 広島大学理事・副学長（グローバル化担当）                           |
| 倉田 直道    | 工学院大学名誉教授                                      |
| 後藤 景子    | 奈良工業高等専門学校長、<br>独立行政法人国立高等専門学校機構 理事            |
| 篠原 聡子    | 日本女子大学学長                                       |
| 下條 真司    | 大阪大学サイバーメディアセンター長， 教授                          |
| 竹内 比呂也   | 千葉大学副学長， 人文科学研究院教授                             |
| 恒川 和久    | 名古屋大学大学院工学研究科教授                                |
| 出口 敦     | 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授                            |
| 土井 美和子   | 国立研究開発法人情報通信研究機構監事， 東北大学理事，<br>奈良先端科学技術大学院大学理事 |
| ◎ 西尾 章治郎 | 大阪大学総長   |
| 浜田 恵造    | 香川県知事  |
| 山内 正則    | 高エネルギー加速器研究機構長                                 |

(以上 16 名， 敬称略， 五十音順)  
(◎：主査)

## 全国知事会議（令和 4 年 7 月 28 日、29 日 全国知事会）

(<https://www.nga.gr.jp/data/activity/conference/R4/1659521695766.html>)

### 資料 6 「イノベーション・コモンズ(共創拠点)」の推進に向けて

【ポイント】

- 大学等の施設が、イノベーション・コモンズとしての機能を十分に発揮できるように、施設の機能強化や老朽化対策を含む大学施設の整備充実を図ること。

### 3 イノベーション・コモンズに係る施設整備の充実

- 共創を支える大学施設の施設整備の充実

これからの大学等においては、地域の多様な主体が共に創造活動を展開するための教育研究施設や屋外空間等も含めたキャンパス全体が有機的に連携した共創拠点の創出が求められる。

大学等の教育研究等を支える施設は、昭和 40 年から 50 年代にかけて整備された膨大な施設群が一斉に老朽化を迎えており、地域を支える人材の育成や教育研究への支障などが深刻な課題となっている。

地域における人材の育成の拠点であり、「知の拠点」である大学等がイノベーション・コモンズとしての機能を発揮するためには、老朽化に対応した施設改修による安全性の確保や時代に対応した施設設備の機能強化が必要である。

また、大学等が、社会・経済の変革に対応した学部再編・新設・定員増、サテライトキャンパスの設置等により地域の共創拠点の創出を図る場合に、施設設備の整備、継続的な運営に資する十分な財源措置を国が講じることが重要である。

このため、国においては、国公立、私立を問わず、大学等がイノベーション・コモンズとしての役割を担うため、施設の機能強化や老朽化対策を含む大学等の施設の整備充実を図ること。

## 「次期教育振興基本計画」策定に向けた提言

### -主体的な学びを通じ、未来を切り拓くことができる多様な人材の育成に向けて- (令和 4 年 10 月 5 日 一般社団法人 日本経済団体連合会)

#### 9. 産学官の連携・協働を通じた、社会に開かれた学校づくり

##### (2) 大学等における産学官の連携・協働の推進

大学は、国公立を問わず、多様なステークホルダーが関わり合い、地域の課題解決や新たな価値の創出に取り組めるよう、自らの特色・強みを活かした形で、キャンパス全体を「イノベーション・コモンズ（共創拠点）」として整備することが重要である。その際、ハード・ソフト両面の環境整備を進め、教育研究活動のDXに対応する必要がある。

## 2023年度中小企業・地域活性化施策に関する意見・要望

(令和 4 年 7 月 21 日 日本商工会議所)

<要望事項>

#### IV. 地方創生の再起動 7. 地方創生、地域資源活用

[要望項目]

- (5) 地方における産業・地域振興等の連携主体として、イノベーション拠点の役割を担う大学のソフト・ハード一体となった教育研究環境の整備推進